

「胃がんリスク層別化検査」 新規受託開始のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、認定 NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構から出されました「新しい ABC 分類 胃がんリスク層別化検査(ABC 分類)2016 年度改訂版 運用の提案」に基づき、標記検査項目の新規受託を開始させて頂く事になりましたのでご案内申し上げます。

敬 白

2017 年 3 月

◇新規受託開始検査項目

- 胃がんリスク層別化検査(ABC分類) 項目コード: 5544
- 胃がんリスク層別化検査(E群判定) 項目コード: 5545

受託開始日：2017 年 4 月 1 日(土)受付分より

◇従来の胃がんリスク層別化検査(ABC 分類)からの主な変更点

- ・「胃がんリスク層別化検査(ABC 分類)における H・ピロリ抗体検査の判定基準の変更」

H・ピロリ抗体検査の判定基準を従来の 10 U/mL 未満から 3 U/mL 未満に変更となり、3 U/mL 以上 10 U/mL 未満の陰性高値をリスク有りの B 群として扱います。

- ・「E 群(除菌群)の新設」

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、胃がんリスク層別化検査(ABC 分類)の判定の対象とせず、すべて E 群(除菌群)として区別します。

※検査要項等の詳細は裏面をご参照下さい

◇受託要領

・胃がんリスク層別化検査(ABCD群判定専用)

新		現行内容(参考)
検査項目名 (セット名)	胃がんリスク層別化検査	ABC検診
項目コード	5544	5883
セット内訳	H. ピロリ抗体 ペプシノゲン	(同左)
材料	血清	(同左)
検体量	0.8mL	(同左)
保存方法	冷蔵	(同左)
所要日数	3~4	(同左)
検査方法	H. ピロリ抗体 :EIA法 ペプシノゲン :LA法	(同左)
基準範囲	H. ピロリ抗体 :3未満 ペプシノゲン :PG I 値が70.1以上又は PG I /PG II 比が3.1以上	H. ピロリ抗体 :10未満 ペプシノゲン :(同左)
報告単位	H. ピロリ抗体 :U/mL ペプシノゲン :ng/mL	(同左)

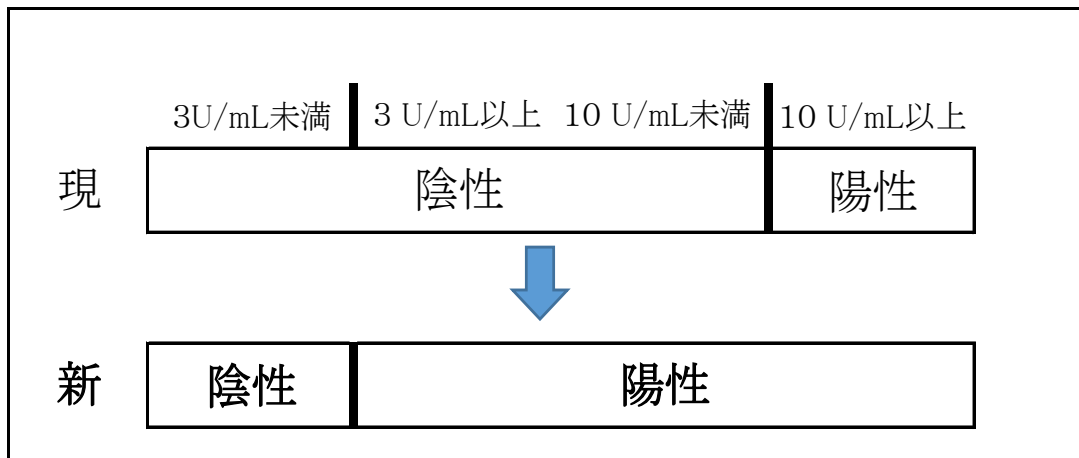
・胃がんリスク層別化検査(E群(除菌群)判定専用)

検査項目名 (セット名)	胃がんリスク検査E群
項目コード	5545
セット内訳	H. ピロリ抗体 ペプシノゲン
材料	胃がんリスク層別化検査 (項目コード:5544)と同条件
検体量	
保存方法	
所要日数	
検査方法	
基準範囲	
報告単位	

◇依頼上の注意点について

- 1 胃がんリスク層別化検査をご依頼される際は、依頼書に『胃がんリスク層別化検査』及び項目コード「5544」をご記入下さい。
- 2 ピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましては、依頼書に『胃がんリスク層別化検査(E群)』及び項目コード「5545」をご記入下さい。
(新たな運用の提案に基づき、ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、ABC分類の判定の対象にはなりません。E群(除菌群)として区別します。)
- 3 臨床診断におけるH.ピロリ抗体検査につきましては、従来通り、項目コード「2320」でご依頼下さい。

◇胃がんリスク層別化検査における H. ピロリ抗体判定基準



◇ABC分類2016年度改訂版における各群のコメント一覧

A群： おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。
逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。
未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。
一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。

B群： 少し弱った胃粘膜です。
胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。
胃がんのリスクもあります。
内視鏡検査を受けましょう。
ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群： 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。
胃がんになりやすいタイプと考えられます。
定期的な内視鏡検査をお勧めします。
ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D群： 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。
胃がんなどの病気になるリスクがあります。
ピロリ菌感染診断をお勧めします。
かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談ください。

E群： ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。
E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。